

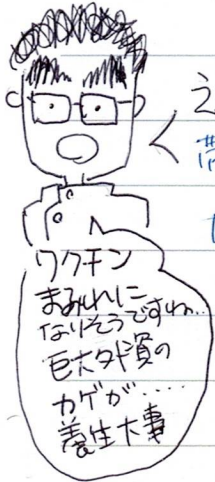
7月のおたより

7月といえば七夕。七夕といえば笹飾り。笹^{ささ}といえば「パンダ」。パンダ^{パンダ}といえば、そう南紀白浜のパンダがみんな中国へかえっちゃいましたね。30年程前、上野動物園ではじめてパンダを見ましたが、うちの家族以外、ほとんど人がいなくて混雑もいりだか。ちよと寂しかった思い出があります。



一応、ひまわりと織姫... 長子 長女
パンダ パンダ かえりました

ササハリスの担当 T. ユーゼンは「七夕といえば笹→クマ笹→ササハリス→健康...」でしょうね。マイボトルのお茶やペットボトルの水にクマ笹エキスを入れて飲むと「バッチ、グー good!」とのこと。血と汗がサラサラ〜 (笹の葉だけに、おまけ)



〜最近の話題も、帯状疱疹ワクチンの広告をよく目にするようになりました。帯状疱疹は水ぼうそうウイルスが原因です。多くの方が子どもが顔にかかった水ぼうそう。治ったあとも、そのウイルスはからだの中にじっと潜んでいます。

こんなことで ✓ 加齢、過労、ストレス、睡眠不足、食生活の乱れ

→ ✓ 外傷やガンなどの病気の影響

✓ 免疫抑制剤、抗ガン剤、放射線治療などの影響

水ぼうそうウイルスが再び暴れだし、皮膚に痛みを伴う発疹があらわれる。これが帯状疱疹です。

症状は、身体の片側、顔、頭皮などに神経痛のような痛み、知覚異常が発生します。(はじめは痛みがない場合も) その後、水疱があらわれ、神経に沿って広がります。帯状疱疹と診断されたら... 最初の段階でできる限り炎症を鎮めることが大事。炎症が強くなり、長引くほど、神経の鞘やが破壊が進み、帯状疱疹後神経痛のリスクが大きくなります。抗ウイルス剤と漢方の両輪で対処することをおすすめします。抗ウイルス剤で水ぼうそうウイルスの増殖を抑制。抗ウイルス剤だけでは炎症をおさえないので、ここで漢方の出番です。漢方で炎症を抑制すると共に、T細胞(免疫系)を活性化させウイルスの活動力を抑制すること。(この時の炎症は、外見では皮膚の表面状ですが、からだの内臓-知覚神経で炎症がおきています) 炎症によって破壊された神経鞘は治りません。そうならないように、炎症をおさえる(あばやく)ことが大事なんです。プラス漢方の力を〜と〜と